

<実施概要>

【名称】 平成 25 年度 日本赤十字社 東日本大震災復興支援事業
日赤キッズクロスプロジェクト 『サマーキャンプ 2013 in クロスヴィレッジ』

【期間】 平成 25 年 7 月 22 日(月)～8 月 18 日(日)

【回数】 合計 9 回 (3 泊 4 日を 1 回)

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ① 7/22 ～ 7/25 | ② 7/25 ～ 7/28 | ③ 7/28 ～ 7/31 |
| ④ 7/31 ～ 8/3 | ⑤ 8/3 ～ 8/6 | ⑥ 8/6 ～ 8/9 |
| ⑦ 8/9 ～ 8/12 | ⑧ 8/12 ～ 8/15 | ⑨ 8/15 ～ 8/18 |

【主催】 日本赤十字社

【後援】 文部科学省、岩手・宮城・福島県各県教育委員会、仙台市教育委員会、北海道、留寿都村

【対象】 東日本大震災によって被災した岩手県、宮城県、福島県の市町村に在住の小学 5・6 年生、
中学 1～3 年生 各回 240 人×9 回の 2160 人を予定

【運営スタッフ】

青少年赤十字加盟校の教師、青年赤十字奉仕団、協賛企業・団体職員、北海道臨床心理士会、
日本赤十字社 職員・看護師・臨床心理士、日本赤十字北海道看護大学、日本赤十字秋田看護大学・
短期大学、近畿日本ツーリスト(株)=委託旅行会社 など 約 700 人を予定

【開催場所】

北海道留寿都村(ルスツリゾート) 〒048-1711 北海道虻田郡留寿都村泉川 13

本キャンプは日本赤十字社が 3 カ年計画で実施している復興支援事業の一つ「日赤キッズクロスプロジェクト」の一環として行うもので、財源は、世界の人々から各国の赤十字社などを通じて寄せられた海外救援金です。平成 25 年 5 月末までに受け付けた海外救援金は約 999 億円にのびります。

※国内外の多くの皆さまからお寄せいただいた「義援金」は本事業には一切、使用しておりません。義援金は全額が被災都道県に設置された「義援金配分委員会」を通じて、被災された方々に届けられています。

<取材関連情報>

<セレモニー・イベント>

◆オープニングセレモニー仙台空港(プレス受付 9 時 30 分～)

- 【日 時】 平成 25 年 7 月 22 日(月)10 時 00 分～10 時 30 分
- 【開催場所】 仙台空港1階イベント広場
- 【プログラム】 日本赤十字社宮城県支部 事務局長の挨拶
- 【参 加 者】 ANA723 便に搭乗する参加者の小・中学生約 55 人



仙台空港では子どもたちがタラップより搭乗する様子を撮影いただけます。
(福島空港では搭乗ゲートからの撮影)

◆オープニングセレモニー福島空港(プレス受付 8 時 30 分～)

- 【日 時】 平成 25 年 7 月 22 日(月)9 時 00 分～9 時 30 分
- 【開催場所】 福島空港1階イベントスペース
- 【プログラム】 日本赤十字社福島県支部 事務局長の挨拶
- 【参 加 者】 ANA4785 便に搭乗する参加者の小・中学生約 80 人

◆入村式

- 【日 時】 平成 25 年 7 月 22 日(月)16 時 40 分～17 時 10 分(プレス受付 16 時 00 分～)
- 【開催場所】 ルスツリゾート(北海道虻田郡留寿都村字泉川 13 番地)
- 【プログラム】 クロスヴィレッジの村長(主催者)挨拶、スタッフ紹介、アイスブレイク
- 【参 加 者】 1 回目の参加者である 3 県から集まった 240 人の小・中学生

<報道関係者様用専用バス>

- 【往路】 7 月 22 日(月) 14 時 新千歳空港発 ～ 16 時 ルスツリゾート着
- 【復路】 1 便: 7 月 22 日(月) 17 時 30 分頃ルスツリゾート発 ～ 19 時頃 新千歳空港着
- 2 便: 7 月 23 日(火) お昼頃ルスツリゾート発 ～ 14 時頃 新千歳空港着

(ご参考)ルスツリゾートまでのアクセス方法

- バス → JR 札幌駅から洞爺湖温泉行約 120 分 「ルスツ高原前」下車すぐ
- タクシー → JR 札幌駅から約 90 分
- 車 → 新千歳空港から約 90 分

※ 上記以外のイベントや、宿泊を伴うご取材もお受けいたします。ご希望の方は、下記「サマーキャンプ広報担当」までお問い合わせ下さい。

<「サマーキャンプ 2013inクロスヴィレッジ」広報担当>

日本赤十字社 東日本大震災復興支援推進本部 杉山、菊池
TEL: 03-6860-7608 FAX: 03-3437-7091 Mail: fukko@jrc.or.jp

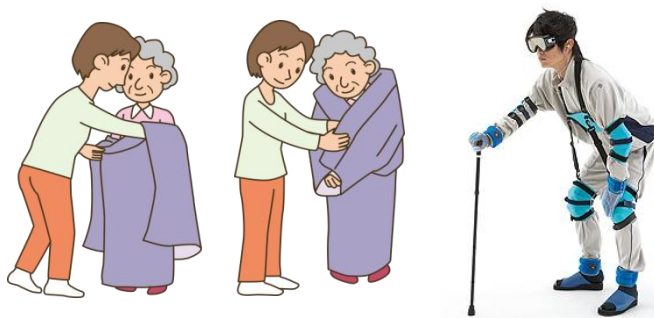
＜全体スケジュール＞

時間	第1日目	第2日目		第3日目		第4日目
	ユニットA・B	ユニットA	ユニットB	ユニットA	ユニットB	ユニットA・B
7:00	集合 (各市町村の公共施設等)			朝の集い		
8:00		朝の集い 写真撮影		朝食		朝食
9:00	いわて花巻・仙台 福島空港	朝食		「将来を見据えて 視野を広げる」 プログラム 〔3h〕	選択プログラム 〔3.5h〕	グループ ミーティング ・アンケート記入
						退村式
10:00		オリエンテーリング 〔3h〕	サポートプログラム 〔2.5h〕	[A] 視覚障害理解 [B] 国際理解 [C] 環境問題 [D] 食育	・乗馬体験 ・ラフティング ・釣り ・マウンテンバイク 等	ルスツリゾート発
11:00						
12:00	新千歳空港	昼食	昼食	昼食	札幌観光等	
13:00						
14:00	札幌観光等	サポートプログラム 〔2.5h〕	オリエンテーリング 〔3h〕	選択プログラム 〔3.5h〕	「将来を見据えて 視野を広げる」 プログラム 〔3h〕	新千歳空港
15:00						
16:00	ルスツリゾート着			リフレッシュタイム 〔1h〕		いわて花巻・仙台 福島空港
		のびのびタイム 〔1.5h〕				
17:00	グループ ミーティング ・オリエンテーション	グループミーティング ・各自の振り返りと全体での共有、翌日の先見 ・GSから仕事や勉強していることについて 語る		夕食		解散 (各市町村の公共施設等)
18:00						
19:00	夕食	夕食		お別れパーティ（キャンドルサービス）		
20:00	入浴・自由時間	入浴・自由時間		10年後の自分への手紙の作成		
21:00				入浴・自由時間		
22:00	点呼・消灯	点呼・消灯		点呼・消灯		

<スタディープログラム①>

「サポートプログラム～高齢者や障害者の生活支援のために～」

災害時において特に支援を必要とする高齢者や障害者などの「災害時要援護者」の生活支援に役立つ知識や技術を、体験を通して学びます。具体的には「毛布を使つてのガウンづくり」や「車いすサポート」「高齢者疑似体験」などを通じて、日常生活でも役立つ実践的なスキルの習得と、主体的に支援する心を養います。



(イメージ)

展開説明①	10分
毛布を使って担架搬送	20分
ホカホカ毛布ガウン	20分
休憩	10分
展開説明②	20分
車いすで安心生活サポート	30分
感じてナットク高齢者理解	30分
まとめ	10分

<スタディープログラム②>

「将来を見据えて視野を広げる」プログラム

「視覚障害理解」「国際理解」「環境問題」「食育」の4つをテーマに、レクリエーションなどを通じて、参加者が将来の夢や職業を考えるきっかけづくりを提供します。参加者はいずれか1つのテーマに参加します。

① 視覚障害理解

視覚障害についての学習を通じて他者理解を深め、目の前にいる人のニーズに気づくことを知り、助けを必要としている人たちに対して自発的に行動を起こす心を養います。

視覚障害の現状	45分
点字の歴史・点字クイズ・点字体験	45分
視覚障害者の誘導	45分



② 国際理解

ゲームを通じて、世界には様々な国があり、文化や生活も大きく異なるということを学びます。

オリエンテーション、アイスブレイク	30分
アクティビティ①『世界の“おもしろゲーム”』 …特別な道具を手にとり、どんな内容のゲームなのかを考える	60分
アクティビティ②『変装クイズ! どこの国のお仕事?』 …与えられた衣装などから「どこの国の何の仕事か」を当てる	60分
未来へ向けて …気づいたこと、思ったことを共有する	30分



③ 環境問題

地球温暖化等の環境問題やエネルギー問題を知り、それらの問題解決に向け自分たちに何ができるのかを考えるとともに、世界はつながりあい共存していることを理解します。

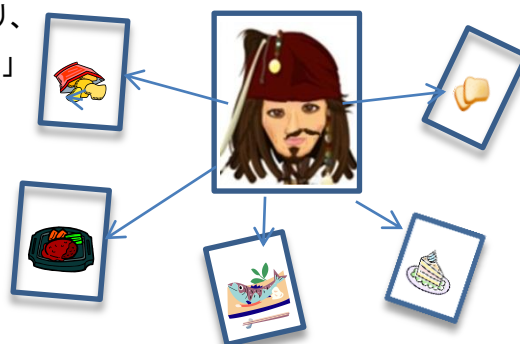
オリエンテーション	20分
環境レクチャーとクイズ	40分
『ごみ分別ゲーム』	45分
『省エネカルタ大会』	45分
未来へ向けて	30分



④ 食育

「食育とは、バランスの良い食生活を送ることで健康になり、まわりにもいい影響を与えてみんなで健康になっていくこと」を再認識してもらうために、体験型プログラムにチャレンジします。

オリエンテーション、アイスブレイク	30分
アクティビティ① ペーパータワー	60分
アクティビティ② キャラクター福笑い対決	60分
未来へ向けて	30分



<アクティビティープログラム①>

「オリエンテーリング（フィールドワーク）」

地図とコンパスを用いて山野に設置されたポイントを90分間で探索し、各ポイントにある国旗をより多く集めてゴールを目指します。チームワークの大切さ、困難に挑戦すること、他者との信頼関係を築きながら共に物事を進める喜びを学びます。

※「オリエンテーリング世界選手権」が実際に行われた会場で実施します。



<アクティビティープログラム②>

参加者が自由に選べる8つのプログラム（選択プログラム）

ラフティングやマウンテンバイク、乗馬教室など8つのプログラムの中から参加者が1つを選び体験します。

<p>①酪農体験+バター作り (雨天時はキャンドルクラフト)</p>  <p>牧場の仕事や牛の体について学び、牛舎を見学します。新鮮な牛乳を使用しバター作りに挑戦します。</p>	<p>②乗馬教室 (雨天時はキャンドルクラフト)</p>  <p>特設会場にて馬の扱いについて学んだり、馬の尻毛を使ったストラップ作成、乗馬を楽しみます。</p>	<p>③クライミング (雨天時変更なし)</p>  <p>インストラクターの指導のもと、道具を使わずに自分の手と足だけで壁（岩）を登るフリークライミングに挑戦します。</p>	<p>④釣り体験 (雨天時はレザークラフト)</p>  <p>イwana、ヤマメ、ニジマス等の基本的な、えさ釣りの方法を学びます。</p>
<p>⑤レザークラフト (雨天時変更なし)</p>  <p>本皮を使ってオリジナルストラップ&キーホルダーを作ります。</p>	<p>⑥キャンドルクラフト (雨天時変更なし)</p>  <p>色鮮やかなオリジナルろうそく作りに挑戦します。完成品は持ち帰ります。</p>	<p>⑦マウンテンバイク (雨天時はレザークラフト)</p>  <p>26インチのマウンテンバイクで北海道の草原を駆け巡ります。</p>	<p>⑧ラフティング (小雨決行)</p>  <p>「尻別川」でのラフティングを体験します。</p>

<日赤キッズクロスプロジェクト(教育支援事業)>

東日本大震災では、学校をはじめとする教育機関も大きな被害を受け、授業の再開に時間を要し、子どもたちの学習や活動が制限されました。また、学校生活に必要な備品の不足、学校移転や仮設住宅入居などによる遠距離通学を余儀なくされるなど、さまざまな課題を抱えていました。こうした状況を受けて、日本赤十字社では子どもたちが一日も早く、もとの生活を取り戻すことが出来るよう、健康と教育の両面からの支援を行ってまいりました。主な活動内容は、下記のとおりです。(数字は平成 25 年 4 月末時点)



- ① スクールバスの支援
子どもたちの通学の足を確保するために、スクールバスの運行・スクールバスを寄贈
→岩手県に 15 台、福島県に 7 台を寄贈
- ② 保健室への備品の整備
被災した学校の保健室に、身長計、体重計、視力計、ベッドなどを寄贈
→岩手県、宮城県の小・中・高校計 160 校の保健室に計 1,799 点を配付
- ③ 仮設体育館の建設・体育用備品の寄贈
津波で校舎が流出するなどして、仮設校舎に移転した学校に対し、公的な資金の対象とならなかった仮設体育館の建設、とび箱やマットなどの体育用備品の寄贈
→岩手県に 2 か所、福島県に 1 か所仮設体育館を整備、岩手県、宮城県の小・中学校計 7 校に計 537 点整備
- ④ 学校給食の支援
学校の給食室や市町村の給食センターに調理器具、食器、保管庫、冷蔵庫などの資器材を整備
→岩手県(3 か所)、宮城県(8 か所)、福島県(5 か所)に計 8,933 点を整備
- ⑤ 保育園、こども園、児童クラブの建設
被災した保育園の再建や仮園舎の建設、放課後児童クラブの建設およびそこで使われる備品を整備
→ 岩手県に保育園 4 件、放課後児童クラブ 3 件、福島県にこども園(仮設)を整備(建設中や予定を含む)
- ⑥ 屋内プレイランド(すまいるぱーく)の開催
放射線被害を心配して、外での活動を制限されている未就学児童を対象に、のびのび遊べる屋内遊び場を提供
→平成 23・24 年度は計 7 回開催し、約 40,890 名が来場、25 年度は福島県各地で計 6 回開催予定

詳細については、日本赤十字社ウェブサイト(<http://www.jrc.or.jp/shinsai2011/child/>)をご覧ください。

日本赤十字社 東日本大震災教育支援事業 『サマーキャンプ 2013 in クロスヴィレッジ』

取材申し込み先FAX : 03-3437-7091

※ 平成 25 年 7 月 12 日(金)12:00 までにご返信下さい。

ご取材を希望する日程及びイベントにチェックを入れてください。

- ☐ ◆オープニングセレモニー仙台空港 7 月 22 日(月)10:00~10:30 プレス受付 09:30~
- ☐ ◆オープニングセレモニー福島空港 7 月 22 日(月)09:00~09:30 プレス受付 08:30~
(空港管理区域内での撮影は別途許可申請をお願いします。)
- ☐ ◆入村式 7 月 22 日(月)16:40~17:10 プレス受付 16:00~

・媒体名 :

・御社名、部署名 :

・代表者名・人数 : (合計名)

・電話番号 :

・メールアドレス :

・当日連絡先(携帯電話) :

・ご取材のカメラ : スチール () 台 / ムービー () 台 / なし

・掲載、O.A.予定 :

・オフィシャル素材希望: 有 ・ 無

・メディアバスご利用の有無 : 22日往路 / 22日復路 / 23日復路

■ 本リリースおよび取材に関する問い合わせ先

「サマーキャンプ 2013inクロスヴィレッジ」広報担当

日本赤十字社 東日本大震災復興支援推進本部 杉山、菊池

TEL:03-6860-7608 FAX:03-3437-7091 Mail:fukko@jrc.or.jp

キャンプ期間中の連絡先:080-5983-2118